

第 28 期生

中西 清之

臨海学舎

「臨海学舎」、聞くところによりますと、兵庫県では今や鳴尾高校でのみ実施されているとのことだそうです。28 期生（昭和 51 年卒）の頃は、お隣の尼崎北高校や川西緑台高校など阪神間でも数校で実施されていました。現地の東浜で同時に行なわれていたこともあったようです。

私は 1 年生の時と助手として 2 年生の時にも参加しました。高校生活にまだ戸惑いのある 1 年生の夏、大勢の仲間と合宿生活を過ごすことは非常に意義のあるものでした。能力別水泳訓練、クラス全員によるスタンプ発表、そして“大遠泳”（当時は大遠泳・小遠泳がありました）など、全てのプログラムを完遂した時の達成感は感動ものであり、非常に充実したものでした。臨海学舎を終えた後、私だけではなく多くのみんなに高校生としての自覚が芽生え、クラスの雰囲気も良くなった記憶があります。

臨海学舎は当時 4 泊 5 日で行なわれており、助手の生徒は 5 泊 6 日という日程でした。1 年生の時とは異なり後輩を指導する立場での参加となります。夏休み前から体育の先生方から指導方法を教わり、練習に実習。したがって、他の生徒たちより先生とのコミュニケーション機会が断然多くなり、まさに先生の助手となります。“教育”の一端を見たような気がしました。私が教育界への就職を目指した最初の一步でした。

思い出を二つ。自由時間となっていた 3 日目の午後（助手の 4 日目）、先生と助手仲間数名で海岸東端の岬の岩場に行き、素潜りで“うに”を捕ってその場で食べたそのおいしさ（密漁？）。土葬の葬儀があった翌日夜に行なわれた墓場での肝試し（半端なく怖かった）。

「臨海学舎」、鳴尾高校の名物行事・特色の一つとしていつまでも続けていただきたいと思います。今後も魅力ある鳴尾高校であることを期待するとともに応援いたしております。